そよかぜ

毎日新聞西部社会事業団だより

第109号　2021年３月

発行所　〒802－8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(公財)毎日新聞西部社会事業団
発行人　瀬尾　健悟
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail:s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替　01770-2-40213
ＵＲＬ　http://www.mainichiseibu-shakaijigyo.biz/

チャリティー年度末展
コロナ防止で中止

社会福祉事業の資金を得るため、例年３月に北九州市で開催している毎日新聞チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」の年度末展は、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

年度末展は、年末展よりもさらに買い求めやすい価格となり、展示作品も多いため、毎回多くの来場者がある。しかし、２０２０年秋から冬にかけて全国各地で感染者が急増。年が明けても感染はやまず、東京や大阪などに続き福岡県にも緊急事態宣言が出された。

その効果もあり感染者数は減ってきたものの、２～３月にかけての状況が予測できず、仮に開催した場合、開場直後などは「密」な状態になる可能性があった。こうした点を考えあわせ、ご来場いただく皆さんや関係者の安全を確保するため中止することにした。

なお、21年度は、例年通り北九州（小倉）、山口、福岡の３か所で年末展、22年３月に年度末展を予定している。

節目を祝ってリーフレット

知的障害のある人の人生の節目を祝う「第40回出発（たびだち）を励ます集い」（北九州市など主催、毎日新聞西部社会事業団後援）は、新型コロナウイルスの感染防止のため、一堂に会しての開催を中止。中学卒業や成人、還暦などの節目を迎えた30人の写真とメッセージを掲載したリーフレット＝**写真**＝を作成し、それぞれの出発（たびだち）を祝った。

また、当事業団からの記念品（目覚まし置時計）も贈られた。

事業中止相次ぐ

新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、２０２０年度は、多くの人が集まるイベントや事業が中止になった。

当事業団でも、主催するチャリティー即売展をはじめ、助成や後援する予定だった▽障害者スポーツ大会・水泳大会▽障害児・者や母親研修キャンプ▽児童福祉施設のレクリエーション・ボウリング大会――など16の事業が中止を余儀なくされた。また、例年のスタイルを変えて実施したケースもあった。

21年度も事業・イベントの実施は手探り状態が続くと思われるが、できる限り各団体の活動を支援する。

ツイッターでも情報を発信

各種募金や実施事業

「ツイッター」でも社会事業団の募金や社会福祉事業について紹介

毎日新聞西部社会事業団では、各種募金の呼びかけや実施する事業などについて、ネット情報サービス「ツイッター」でもお知らせしている。

当事業団の活動は、一般募金（社会福祉寄金）を基にした社会福祉事業▽小児がん征圧募金や自然災害が発生した時の救援金などの実績、配分▽歳末チャリティー展に出品される作品や展示会場――などについて、毎日新聞紙面をはじめ団報「そよかぜ」やホームページ（ＨＰ）を使い紹介、報告している。

ただ、新聞紙面や団報では紙面に限りがあり、配布先も限定されるため、より広範に多くの情報を届けるためにはＨＰを利用している。ＨＰ利用で、時々の事業や話題はお知らせできるが、さらに幅広い世代に向けて「今お願いしている募金」「きょうスタートした事業」などについて知ってもらうため、２０１８年１月からツイッターでの情報発信も始めた。

限られた内容（字数）だが、話題によっては「チャリティー展の会場風景」「社会福祉顕彰の賞牌」などの写真も添えて情報を提供している。こうしたお知らせをスマートフォンなどで見て、若い世代の人たちを含むより多くの皆さんに当事業団の活動を知っていただき、ご協力をお願いしたい。

編集後記　◆2020年度は終始、新型コロナウイルスに翻弄されました。仕事で必要な皆さんを除いて、これほでど多くの人が季節を問わずマスク姿だったことはないでしょう。感染防止のため「３密」を避け、在宅勤務や時差出勤、会食も少人数で、会話は控えめに――生活スタイルも変わりました◆だれもが少なからず影響を受け、鬱々とした状況の中、たくさんの方々が、社会福祉寄金やコロナ対策医療支援金、希望奨学金などとして浄財をご寄託下さいました。苦しむ人を思いやり、傷ついた人をいたわる、温かい気持ちが伝わってきました。心から感謝申し上げます◆当事業団は、21年度も従来と同様の活動を予定しております。これまでと変わらぬお力添えをよろしくお願いいたします。

20年度歳末助け合い募金集計

	20年度		19年度		前年度比	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般募金	495	5,522,650	385	4,125,010	110	1,397,640
海外救援金	58	345,264	72	435,342	−14	−90,078
小児がん	96	923,325	69	450,857	27	472,468
小計	649	6,791,239	526	5,011,209	123	1,780,030
東日本大震災救援金	3	210,000	3	215,000	0	−5,000
希望奨学金	182	3,252,178	93	1,136,979	89	2,115,199
コロナ対策医療支援金	101	3,296,936	0	0	101	3,296,936
台風19号被害救援金	0	0	64	1,171,167	−64	−1,171,167
台風15号被害救援金	0	0	2	70,242	−2	−70,242
九州豪雨災害救援金	10	140,000	0	0	10	140,000
熊本地震救援金	0	0	1	100,000	−1	−100,000
合計	945	13,690,353	689	7,704,597	256	5,985,756

募金総額は1370万円

歳末助け合い

毎日新聞社と毎日新聞西部社会事業団が呼びかけた２０２０年度の歳末助け合い募金「愛の義援金」の結果がまとまった。一般募金（社会福祉寄金）をはじめ東日本大震災救援金、小児がん征圧募金などの指定寄付を合わせて９４５件、１３６９万３５３３円が寄せられ、前年度を約６００万円上回った。社会福祉寄金は、児童養護施設や母子施設、障害児施設で生活している子どもたちへの新入学・卒業プレゼントや福祉諸団体への助成金として活用、指定寄付は関係機関や団体に贈る。

「愛の義援金」は12月１～28日の約１カ月を募集期間とし、これまでに何らかの募金をいただいた方や歳末チャリティー展で作品をご購入いただいた方々などにチラシや振込用紙などを郵送、20年度は約４５００人に協力をお願いした。

募金は、さまざまな社会福祉事業の資金となる社会福祉寄金のほか、一般募金の医療福祉資金として呼びかけたコロナ対策医療支援金や用途を指定した海外救援金▽小児がん征圧募金▽東日本大震災救援金▽毎日希望奨学金も並行して受け付け。11月末、毎日新聞紙上に社告を掲載、ホームページやウェブ広告などでも協力を呼び掛けたところ、期間中に多くの善意が寄せられた。

現金書留や郵便振替で多くの皆さんから募金が寄せられた

全募金を集計した結果、件数は前年度より２５６件増え、額も約６００万円増加した。このうち社会福祉寄金は４９５件で、１１０件増加し、額は約５５２万円で約１４０万円増えた。また、コロナ対策医療支援金には感染の第２波で患者が激増、医療現場のひっ迫が伝えられたため、１０１件・約３３０万円が寄せられた。

小児がん征圧募金と希望奨学金は、件数、額ともに前年を上回った。とりわけ、希望奨学金は、毎日新聞で特集紙面が組まれたこともあり、件数は倍増、額も約３倍となった。一方、海外救援金は、新型コロナの影響で海外に渡航しての取材・紙面化ができなかったため件数、額ともに減少、東日本大震災救援金は件数、額ともに横ばいだった。

★新入学・卒業祝い品プレゼント★

62施設の484人に

当事業団では長年、歳末募金を基に児童養護施設や母子施設の子どもたちへの新入学・卒業祝い品プレゼント事業を行っており、今年度も福岡、山口両県の66施設を対象に調査用紙を配布。今春小学校に入学予定の子どもや中学・高校を卒業予定の生徒たちの人数や希望するプレゼントを調べてもらった。

集計したところ、対象者は62施設の４８４人であることが分かり、新入学児童にはランドセルやリュックサック（水筒付き）▽手提げ（筆箱付き）▽雨具セット▽図書カードのいずれか希望の品を、中学・高校を卒業予定の子どもたちには目覚し時計か図書カードを贈った。

このほか、歳末募金の第二次配分として、山口県の共同募金会▽福岡県の交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽福岡、北九州のいのちの電話▽北九州あゆみの会▽障害福祉ボランティア協会▽ホームレス支援の「抱樸」――の福祉８団体に前年度と同規模の活動助成金を贈った。